



札幌方面 株式会社合田観光商事 「新型コロナウイルス感染症 クラスター発生医療機関への 支援」事業



株式会社合田観光商事
代表取締役社長
合田高丸さん

クラスターが発生した 医療機関に 高性能空気清浄機を 迅速に寄贈する

北海道旭川市の中核医療機関などで 新型コロナの大規模クラスター発生

ニュース報道やドキュメンタリー番組などで、「医療崩壊」という言葉が毎日のように聞かれるようになった。恐らくその正確な定義はないと思われるが、2020年から続く新型コロナウイルスとの闘いにおいては、病院などの医療現場において、治療を必要とする患者（新型コロナウイルス感染患者だけでなく、その他の病気、ケガなども含む）に十分な治療を提供したくても、それができない事態に陥ることを指しているといっていだろう。海外から届く医療崩壊、あるいは医療危機にある現場の映像は、まさに息をのんだり、目を覆いたくなるものがあるが、そうした事態がいつ日本で起きても不思議ではない。

新型コロナウイルス感染症の場合、医療崩壊への危機を高める要因になりやすいのが、いわゆるクラスター（感染者集団）の発生である。しかも、それが医療を提供する側の医療機関で起きてしまった場合、事態はより深刻になる。それが実際に起きてしまったケースのひとつが、2020年末の北海道旭川市である。旭川市では11月から12月にかけて中核医療機関である慶友会吉田病院、旭川厚生病院、さらに障がい者福祉施設の北海道療育園で大規模なクラスターが発生し、自衛隊の看護師（看護官）らが対象医療機関に災害派遣されることになった。幸い、年が明けてからそれらのクラスターは収束したが、他の医療機関なども含め、まだ予断を許さない状況が続いている。



高性能空気清浄機を各10台ずつ、計30台を寄贈



日本赤十字社の「献血サポーター」に登録し、ホール駐車場で献血活動を行うなど、合田観光商事は様々な活動を実施

ホールのコロナ対策用に用意していた 空気清浄機30台を急遽、医療機関に

大規模クラスターが発生した旭川市の2医療機関および障がい者福祉施設に対して、札幌市に本社を置き、「ひまわり」の名で北海道・東北に37ホール（2020年6月現在）を展開している株式会社合田観光商事では、高性能空気清浄機を各10台ずつ、計30台を急遽、寄贈することに決め、12月末に配送を完了した。

この空気清浄機は、強力な紫外線で浮遊菌やウイルスを抑制し、効率よくきれいな空気を循環させるものだが、本来であれば、合田観光商事ではホールの新型コロナウイルス予防対策として設置する予定だったもので、それを緊急対応的に寄贈することにした。

合田観光商事では旭川市に営業ホールを構えているわけではないが、同じ北海道に基盤を置く企業として、大規模クラスターの発生を非常事態と捉え、速やかに今回の支援活動を行うことに決定したが、コロナ禍の緊急対応であり、企業理念に基づく経営者判断で、この支援に関しては一切の広報活動を控えたという。なお、空気清浄機を贈られた吉田病院からは理事長名義の礼状が、札幌方面遊技事業協同組合を通じて届けられた。

「災害ユートピア」という言葉がある。大規模な災害に直面した人々が、惨禍に向き合うことで、境遇の違いを乗り越えて連帯し、支え合うようなコミュニティが一時的に生まれる事態をアメリカのある作家が指して呼んだものだが、新型コロナウイルスの感染拡大に見舞われている日本でも、マスクや医療用防護服、義援金、医療関係者へ贈られる感謝や激励の言葉などは、さしずめ災害ユートピアの一端と呼んでいいかもしれない。合田観光商事の今回の空気清浄機の寄贈も、その一環として大いに評価できる。